

主催者挨拶

皆様こんにちは。公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。

本日の第31回海事・観光立国フォーラムには、ここ沖縄・那覇の会場にも、ユーチューブによるオンライン配信にも、大変多くの皆様にご参加いただいております。厚く御礼申し上げます。

日本海事センターは、我が国の海事分野の中核的なシンクタンクとして、国内外の動向に的確に対応しつつ、幅広い研究調査事業や助成事業を行っております。これらの活動のうち、産官学の関係者との連携・協働を図り、併せて海事分野について広く皆様のご理解をいただくための活動として、2027年より「海事立国フォーラム」を開催しており、また昨年からは新たにオンラインを活用して「JMC 海事振興セミナー」を開催しております。

海事立国フォーラムは、例年2回、東京と東京以外の都市において開催することとしており、東京以外の都市での開催は昨年8月の神戸市に続くもので、沖縄での開催は2015年10月に那覇市の「とまりん」にて開催して以来8年ぶりとなります。

海事分野は、海運、造船、船用工業、港湾をはじめ水産資源、海洋資源・エネルギー、気候変動、安全保障など多岐にわたりますが、クルーズをはじめ海事と観光との関わりは大変深く、観光と一体となって海事の振興を図ることは大変重要です。

このような観点から、今回の沖縄でのフォーラムは、海事と観光の双方の振興をテーマに「海事・観光立国フォーラム」として開催することとした次第です。

さて、本日の「海事・観光立国フォーラム」には、公務ご多忙の中、地元を代表して沖縄県の玉城デニー知事にご臨席をいただいております、後ほどご挨拶を頂戴いたします。誠にありがとうございます。

沖縄は琉球王国の時代から、当時の日本や中国、東南アジアなどとの交易を通じてアジアの主要な地域との交流を深め、沖縄固有の歴史や独自の文化・芸術、工芸品などを生み出してきました。

そして、今日では、「持続可能な観光」を目指して、世界最高水準の観光地域づくりの取組が進められています。

今回のフォーラムでは、このような琉球・沖縄の海をめぐる歴史を振り返りつつ、我が国とアジアとの、さらには世界との玄関口・交流拠点として、海に囲まれた島々で構成される沖縄という地理的特性を生かして、観光交流をどのように推進していくのか、について展望するとともに、美ら海・美ら島沖縄の自然遺産といかに共生しつつこれを未来に伝えていくのか、について、皆様と共に考察を深めたいと考えております。

まず最初に、観光庁の和田浩一長官と沖縄県立芸術大学の安里進（あさとすすむ）名誉教授から、それぞれ講演をしていただきます。

次に、東洋大学国際観光学部の森下晶美（もりしたまさみ）教授をモデレーターとして、株式会社リクルートライフスタイル沖縄の有木真理（ありきまり）代表取締役、エンデミックガーデンエイチの仲本いつ美（なかもといつみ）代表取締役、前田産業の前田裕子（まえだひろこ）代表取締役社長を講師として意見交換を行っていただきます。

最後に、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー会長の下地芳郎（しもじよしろう）会長から総括コメントをいただき、ご参加の皆様との質

疑応答も予定しております。

本日の海事・観光立国フォーラムが、ご参加いただきました多くの皆様にとりまして、新たな気づきや今後の取組への有益な示唆に富んだものとなりますことを期待いたしまして、冒頭の私の挨拶といたします。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございます。